

東洋炭素株式会社

**2014年12月期第2四半期 決算説明資料**

2014年8月

東洋炭素株式会社

1. 2014年12月期 第2四半期 決算のポイント	P. 3
2. 2014年12月期 第2四半期業績および通期予想	P. 4
3. 経常利益増減要因 (2014年12月期1,2Q実績 vs 3,4Q予想)	P. 5
4. 製品・分野別売上高内訳	P. 6
5. 地域別売上高推移	P. 7
6. 設備投資・減価償却費・研究開発費推移	P. 8
7. 株主還元推移	P. 9
8. 2014年12月期第2四半期 連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
9. 中期経営計画 構築期初年度後半の追い込み	P. 11
10. 中期経営計画 強化・継続する施策	P. 12
11. 中期経営計画 半導体の予測	P. 13
12. 中期経営計画 多孔質炭素(CNovel™)の展開加速	P. 14
13. 中期経営計画 新規アグリ・バイオ案件の進捗	P. 15
14. トピックス	P. 16

## 決算期(事業年度の末日)の変更について

当社は、2013年12月期より決算期(事業年度の末日)を5月31日から12月31日に変更し、子会社につきましても決算期を12月31日に統一いたしました。決算期変更の経過期間となる2013年12月期は、7ヶ月間(一部子会社は9ヶ月間)の変則決算となり、また同第2四半期につきましては四半期報告書を提出しておりません。このため、本資料における2013年12月期は7ヶ月間(9ヶ月間)を連結対象期間とした数値を記載しており、「2014年12月期 第2四半期業績および通期予想」(P. 4)の、対前年同四半期/前期増減額および増減率、「連結貸借対照表」(P.10)の前年同四半期末ならびに「連結キャッシュ・フロー計算書」(P.10)の前年同四半期の数値は記載しておりません。

## ポイント1

売上・営業利益は概ね想定どおりに推移、経常利益および四半期純利益は為替レートが想定より円安になったこと、また回収可能性のある部分について繰延税金資産を計上したことなどにより予想を上回る結果に。

## ポイント2

太陽電池用は、中国顧客の設備更新にともない上期は一時的に需要が増加。依然先行き不透明ながら、下期も緩やかな改善傾向継続との見方。

## ポイント3

一般産業用、機械用・電気用カーボンは健闘、引き続き用途開発や国内外での需要掘り起こしに注力。LED用も堅調に推移、今後も段階的な拡大を持続。

## ポイント4

中国高温ガス炉(HTR-PM)向け黒鉛材の輸出について、日本政府関係省庁の許可を取得したことにともない、出荷がほぼ確実になったことから、今上期に31億円を受注計上。

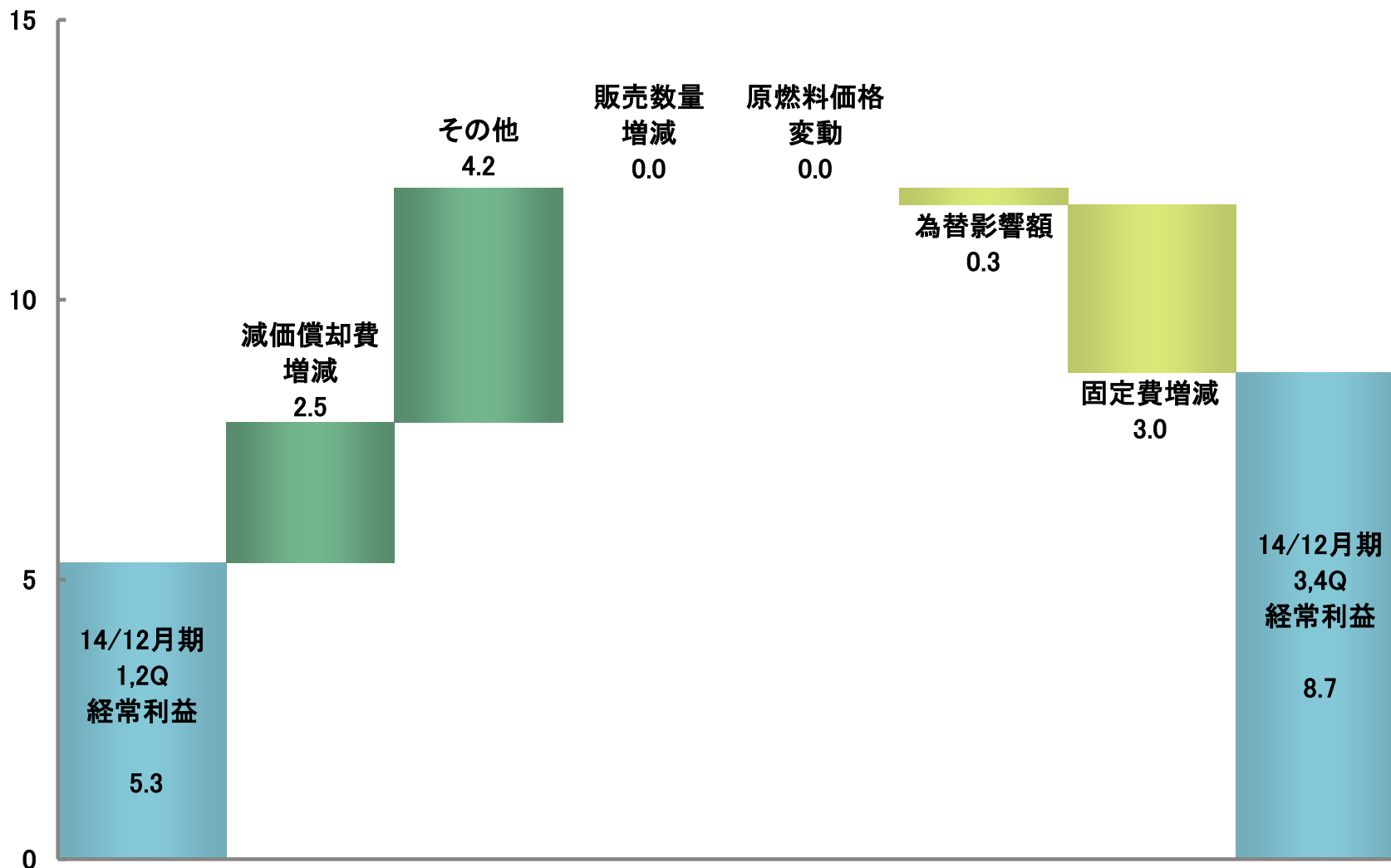
## 2. 2014年12月期 第2四半期業績および通期予想

(単位:百万円)	14/12月期 2Q累計	14/12月期予想 3,4Q	通期	13/12月期 業績
売上高	17,070	16,929	34,000	20,542
営業利益	585	914	1,500	1,035
(売上高営業利益率)	3.4%	5.4%	4.4%	5.0%
経常利益	530	869	1,400	1,303
(売上高経常利益率)	3.1%	5.1%	4.1%	6.3%
第2四半期/ 当期純利益	914	585	1,500	▲ 111
1株当たり 第2四半期/当期 純利益	44円09銭	28円25銭	72円35銭	▲ 5円39銭
為替レート	102.5円/\$ 140.4円/€ 16.7円/人民元	100円/\$ 135円/€ 16.4円/人民元		99.4円/\$ 133.1円/€ 16.3円/人民元

注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。

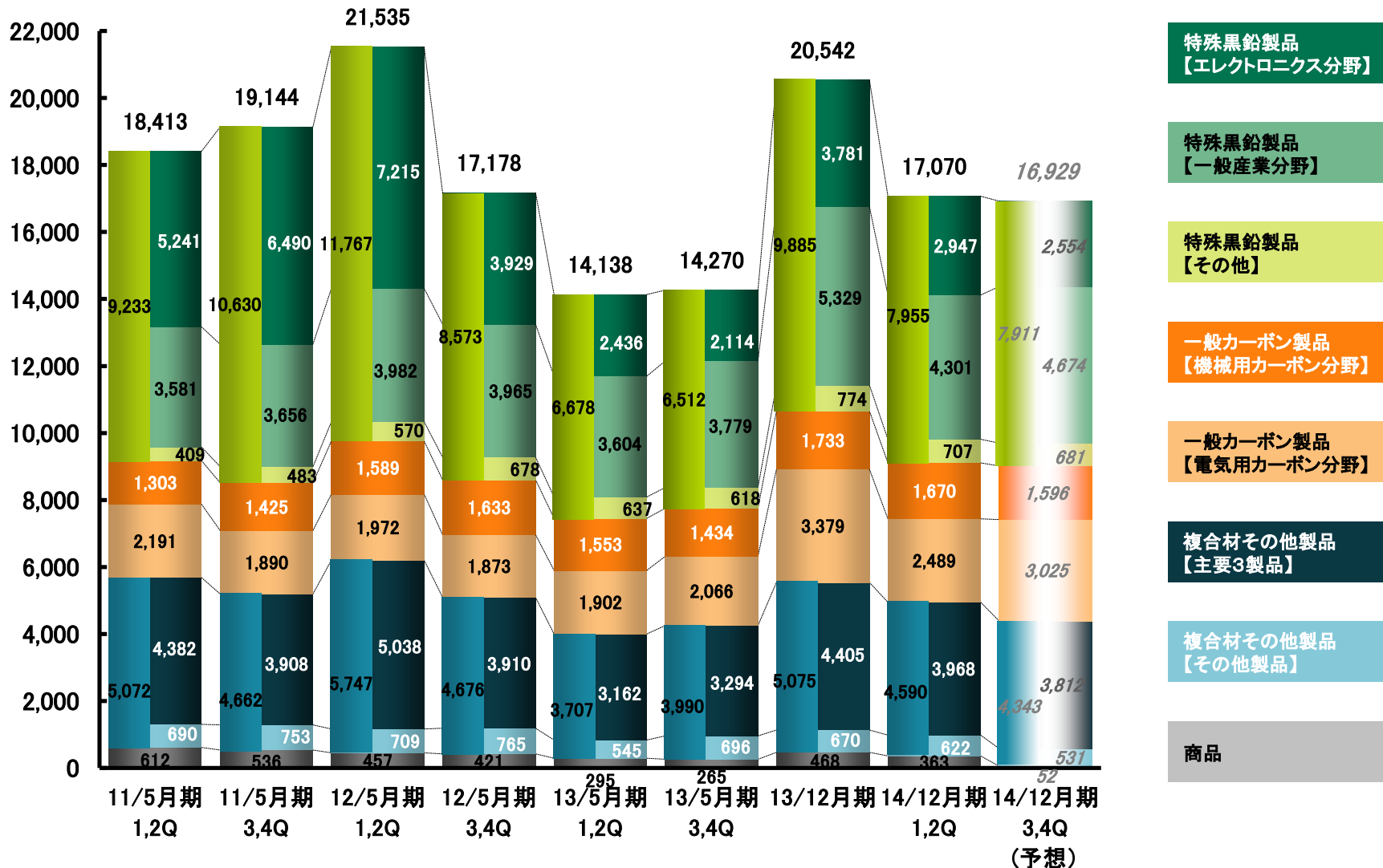
### 3. 経常利益増減要因 (2014年12月期1,2Q実績 vs 3,4Q予想)

(単位: 億円)



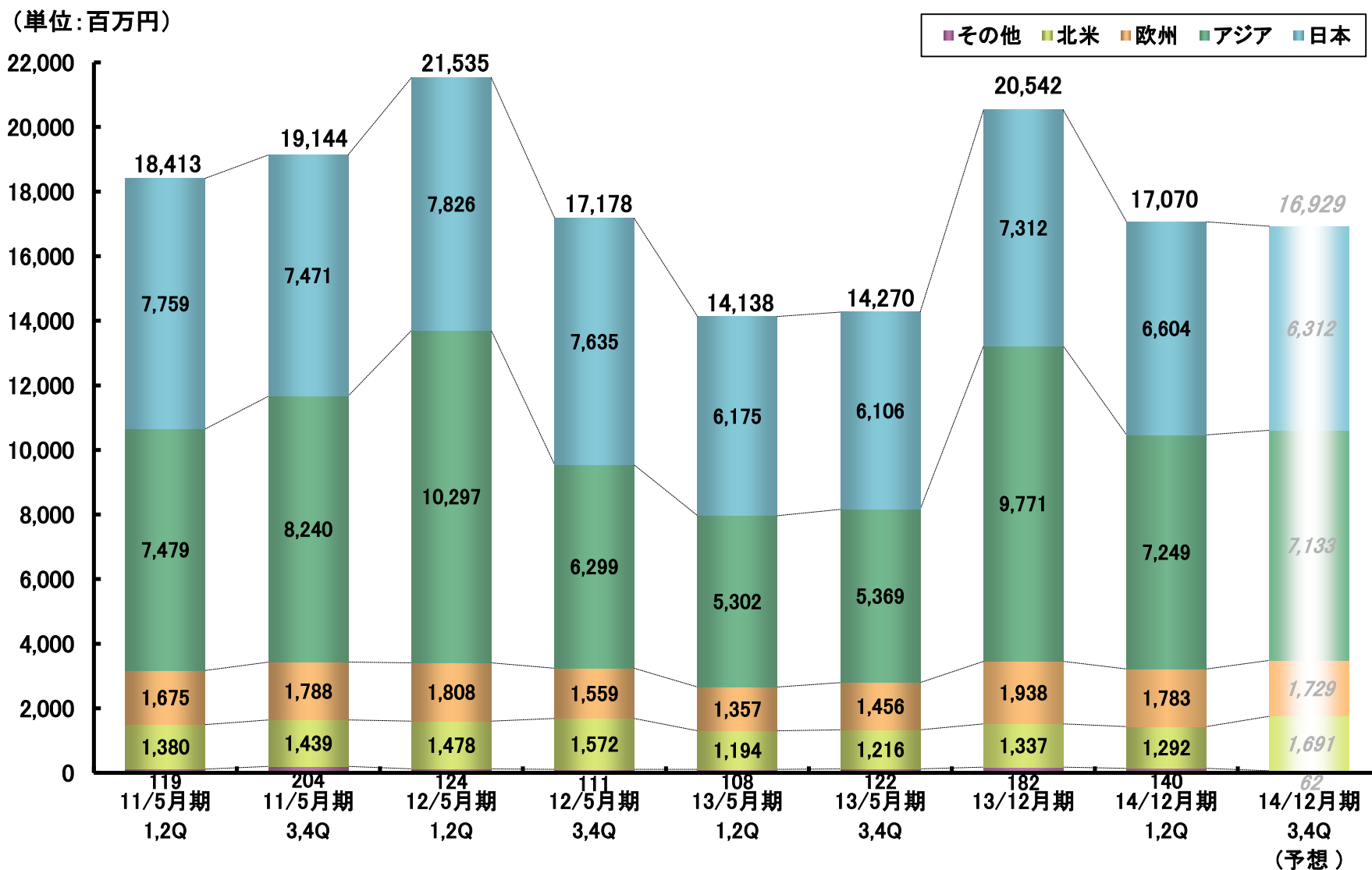
# 4. 製品・分野別売上高内訳

(単位: 百万円)



注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。

# 5. 地域別売上高推移

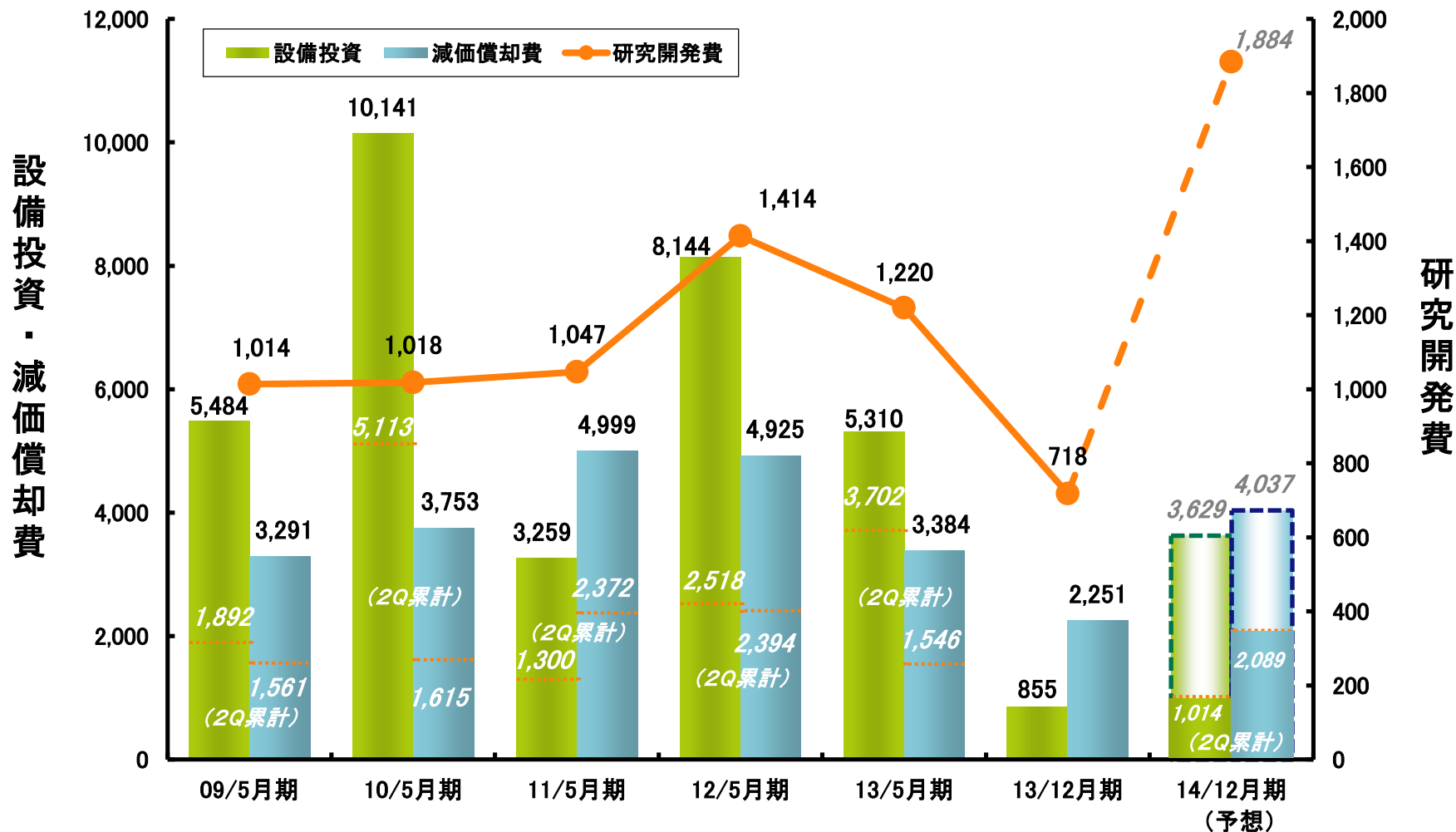


注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。

## 6. 設備投資・減価償却費・研究開発費推移

(単位:百万円)

(単位:百万円)



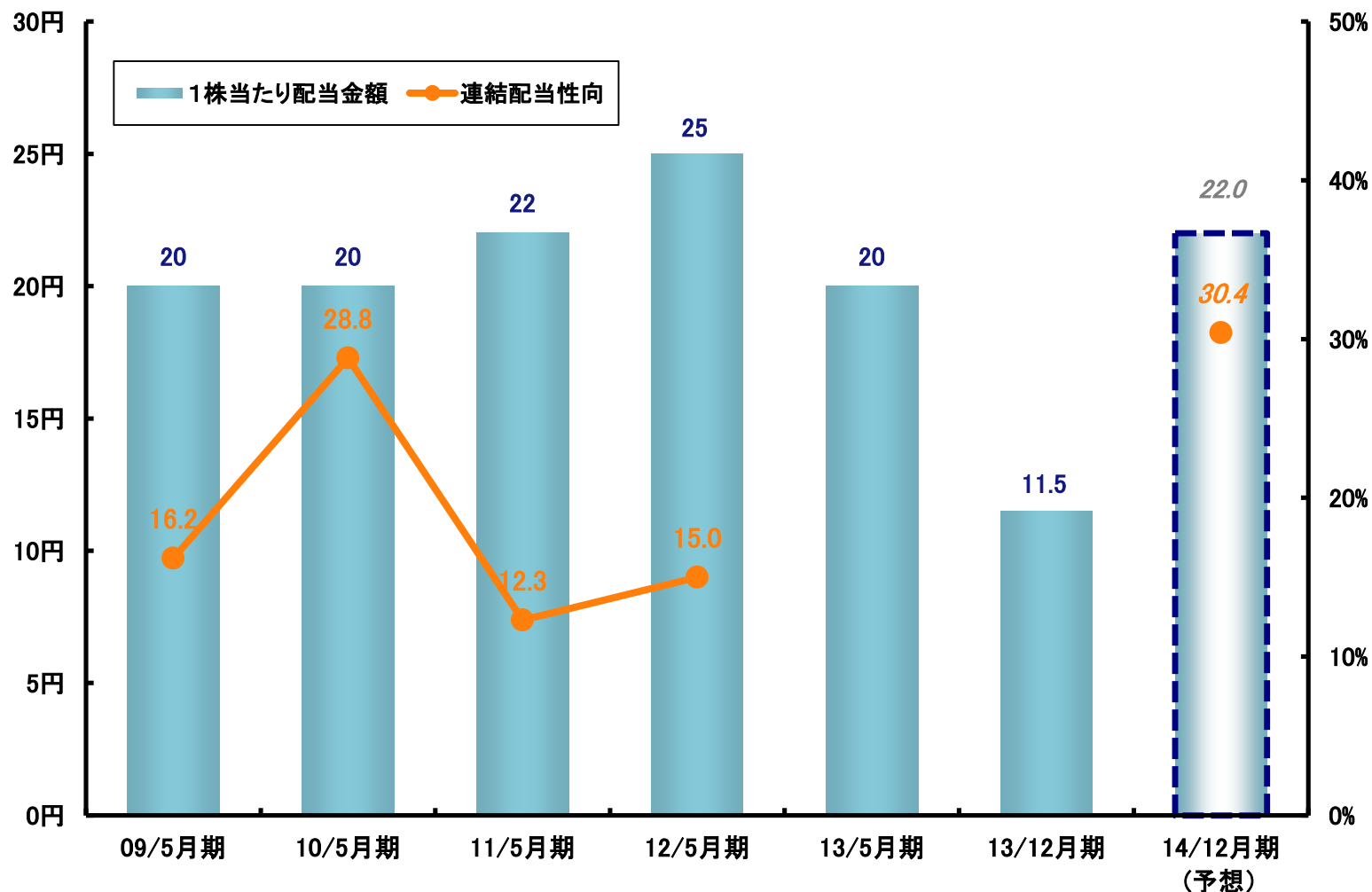
注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。



## 7. 株主還元推移

配当金額

配当性向



注) 1. 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。  
2. 2013年5月期および2013年12月期は当期純利益がマイナスであったため、連結配当性向については記載していません。

## 8. 2014年12月期第2四半期 連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表	(単位:百万円)		連結キャッシュ・フロー 計算書	(単位:百万円)	
	13/12月末	14/6月末		14/12月期 第2四半期	
資産合計	74,229	72,051	現金及び現金同等物 の四半期末残高	6,172	
受取手形及び売掛金	13,447	13,256	現金及び現金同等物 の増減額	▲ 699	
たな卸資産	18,481	17,840	現金及び現金同等物 の期首残高	6,871	
有形固定資産	29,892	28,667	営業活動によるCF	2,605	
負債・純資産合計	74,229	72,051	投資活動によるCF	▲ 1,116	
有利子負債	7,712	5,953	財務活動によるCF	▲ 1,939	
資本金	7,692	7,692			
純資産	58,552	58,178			
自己資本比率	76.3%	78.3%			

注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。詳細は「決算期(事業年度の末日)の変更について」(P.2)をご参照ください。

## 9. 中期経営計画 構築期初年度後半の追い込み

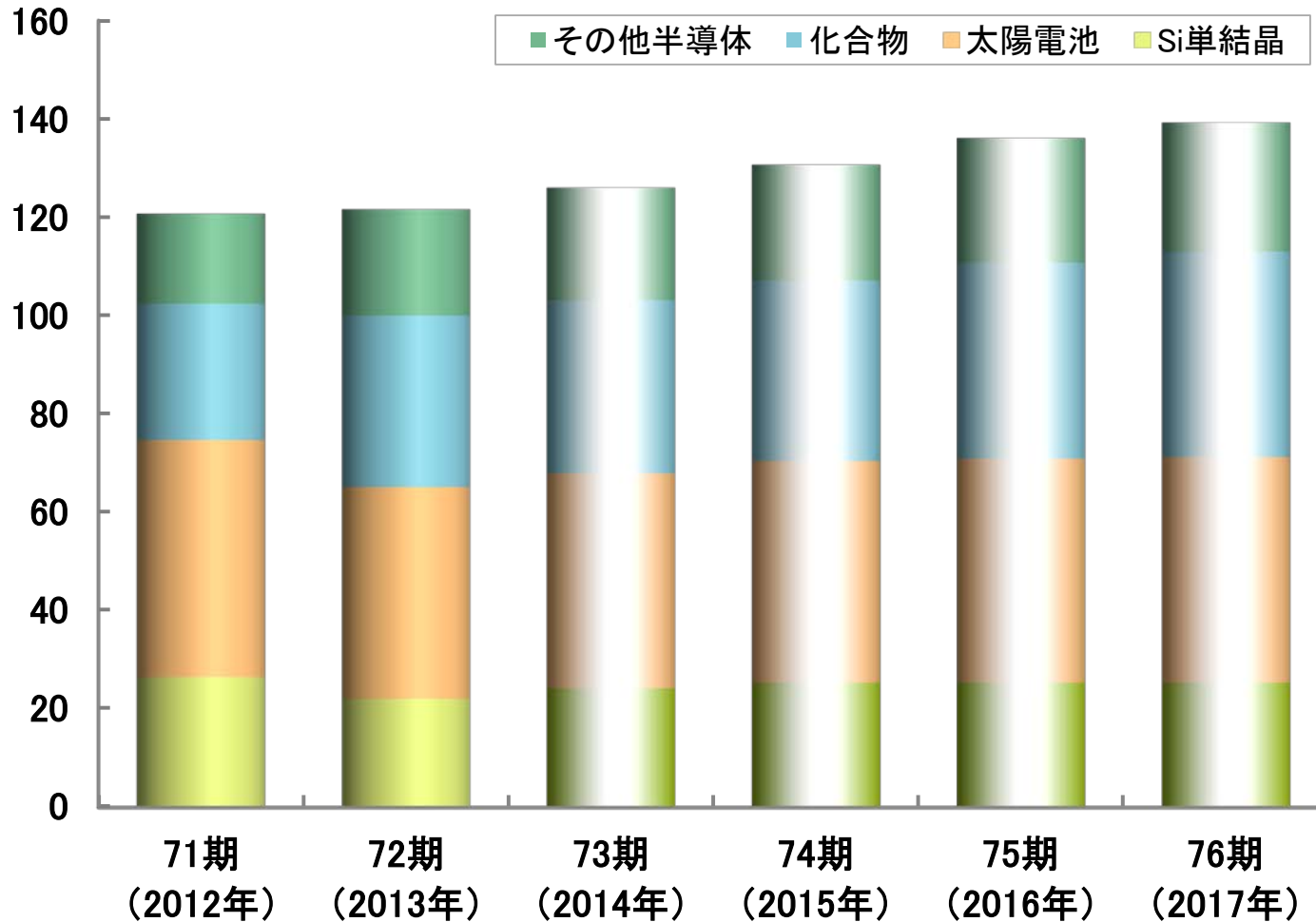
取組施策	73期(2014年)上期の進捗 ※2013年1-6月の月次売上合計		見通しと課題
～73期スローガン～ <b>垂直10% 改善への挑戦</b>	連結売上	対前年※で9%伸長 下期は11%の計画	既存品は中期経営計画達成圏内。鍵は74期(2015年)以降の中国太陽電池補完と米国の立ち直り。
	固定費 変動費	管理可能分野で 各1億円前後の削減	今後は製法(品)改革・自動化・生産技術・看板技術で捻出。
<b>中期経営計画 3つの鍵</b>	非半導体 20%伸び 50億円	対前年※8%伸びで進捗 20%は射程圏内	注力三用途、ブラシは順調。機械用は海外売上比率3割を目指す。熱処理は付加価値技術創出で価格競争に対抗。
	新規開発品 50億円	50社、200件の 評価進捗	海外を含めた大幅な評価案件数増加。新製品の誕生から販売までのフロー改善進行中。
	新規事業 50億円	バイオ案件具体化	新案件数増加を睨んで、増員。中国との連携・設備増強も進行。
<b>中期経営 計画外</b>	原子力	2016年引き渡し予定 今上期に31億円 を受注計上	原子力政策の推移、海外案件注視と中国関係機関へのPR継続。

# 10. 中期経営計画 強化・継続する施策

取組内容	検証対象		評価BM
<p><b>営業変革</b> ～ハングリーな市場対峙～</p>	地域	<p>“強化”…欧米・東アジア “新規”…メキシコ・トルコ・ インドネシア “変革”…日本</p>	<p>4極エリア売上伸び率 (日本・欧米・東アジア・東南アジア)</p>
	人	<p>海外増員20%</p>	<p>海外売上伸び</p>
	手法	<p>売り方のグローバル連携強化</p>	<p>海外売上伸び</p>
	技術	<p>技術サービス教育強化</p>	<p>ニーズ・引き合い(売上)</p>
<p><b>行動変革</b> ～どこにもないものへの希求～</p>	<p>仕事の仕方 変革の有言実行</p>		<p>社員意識(定性調査)</p>
<p><b>働き方変革</b></p>	<p>74期(2015年)始動に向けた 新しい働き方制度構築</p>		<p>一人(時間)当たり利益</p>

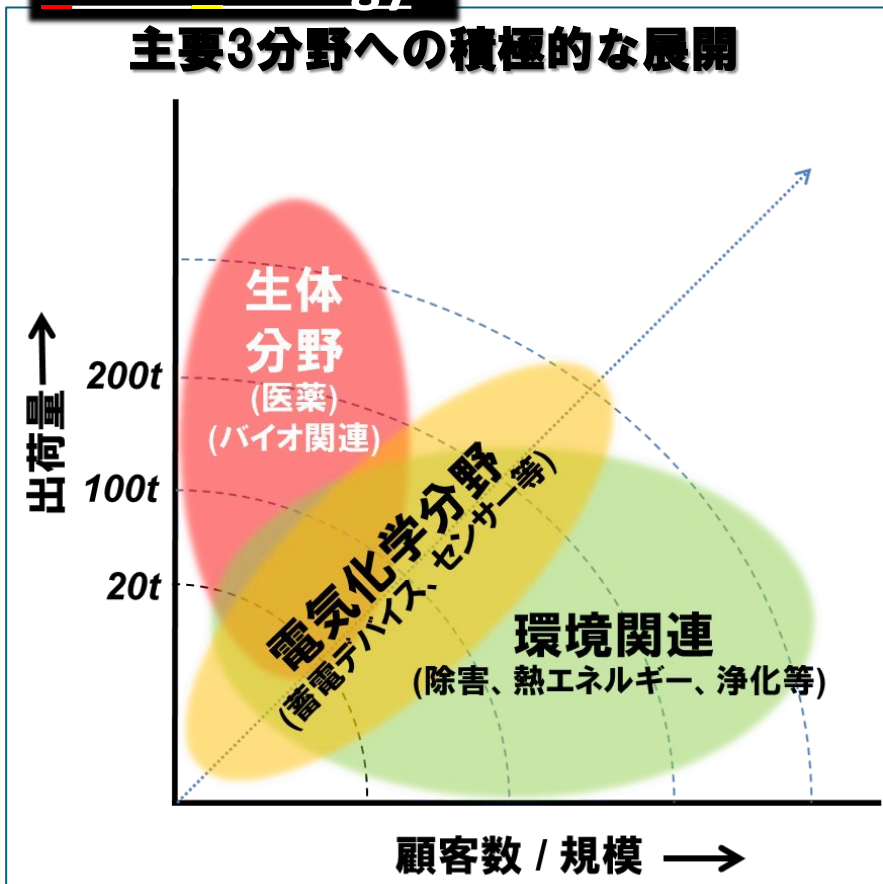
## 中計における半導体合計売上の下限設定110億円を維持・継続

(単位:億円)



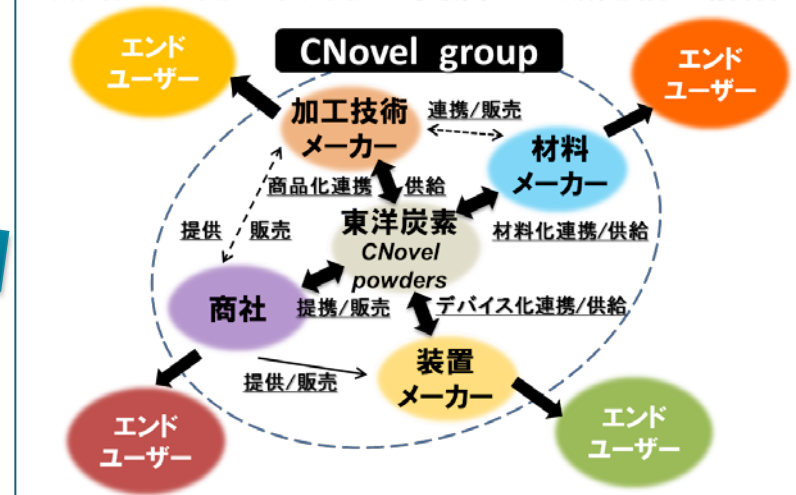
## Sales Strategy

### 主要3分野への積極的な展開



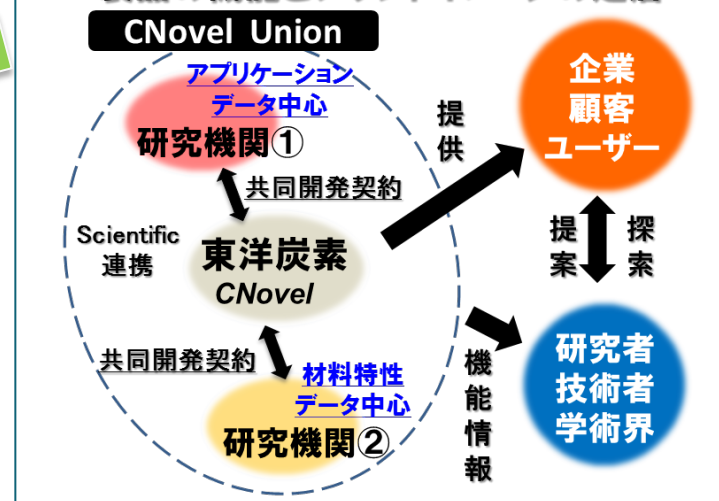
## Sales Network

### 販路の拡充と早期収益変換への販売網の構築



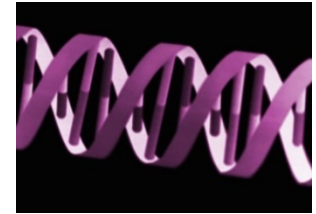
## Sales Promotion to User

### 製品の機能とブランドイメージの定着





- ✓ 74期(2015年)の売上開始目標を維持
- ✓ 部材・装置等の販売も含めて2~3年後に既存品中堅用途レベルの売上規模を目指す
- ✓ 事業領域:  
アグリ・ヘルスケア・バイオ・医療・ライフサイエンス
- ✓ 外部連携・評価活動:  
5つの大学 & 公的研究機関、数社の企業(上場、当該分野の有力企業が中心)と連携・評価試験推進中。
- ✓ その他有望事業候補:  
海洋・土壌・環境(水質浄化等)用途、高耐久潤滑用途等



## ■中国高温ガス炉(HTR-PM)向け黒鉛材を受注計上

- ・受注計上額 31億円。引渡完了時に一括売上計上予定。
- ・本件は2008年11月に受注。今般、日本政府関係省庁の許可取得により出荷が確実に。当社にて製造した素材を上海東洋炭素有限公司にて加工・据付、2016年までに顧客へ引渡予定。
- ・高温ガス炉は、安全性・効率性の高い次世代原子炉として、中国以外でも日本を含む数ヶ国で導入検討中。耐熱性・熱伝導性・耐食性・安定性・耐放射線性等に優れる黒鉛は、炉心用構造材として最適な材料で、中国高温ガス炉においては当社部材が唯一認定。



中国清華大学試験炉

## ■多孔質炭素 CNovel™ ※のパイロット生産ラインが完成

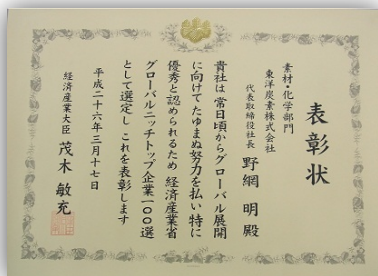
- ・本年6月、多孔質炭素 CNovel™ の生産設備が完成。少量試作の開発材から工業材料としての量産対応可能な生産体制に。
- ・キャパシタや燃料電池などの蓄電デバイスや医療・分析機器、環境関連市場等、多岐にわたる分野において採用検討中。



CNovel™

※吸着性や拡散性等、従来のカーボンにはない構造・機能を持つ当社独自に開発した粉体材料。

## ■「グローバルニッチトップ企業100選」※に選定



- ・当社の代表製品である等方性黒鉛およびコーティング関連製品の市場性・国際性等が高く評価。
  - ・等方性黒鉛は、その高い特性から半導体等の先端用途から一般産業まで幅広い産業に必要不可欠な部材として活躍。当社は世界で初めてこの等方性黒鉛の量産に成功して以来、世界トップシェアを誇る。
- ※国際市場の開拓に取り組んでいる企業のうち、特定分野において高いシェアを確保し、良好な経営を実践している企業を経済産業省が選定・顕彰するもの。



# TOYO TANSO

Inspiration for Innovation

(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL: 06-6472-5811(代) FAX: 06-6472-6007

E-mail: [ir@toyotanso.co.jp](mailto:ir@toyotanso.co.jp)